

令和5年4月1日

東京学芸大学附属学校運営部長 殿

学校名 東京学芸大学附属小金井中学校

校長名 坂口 謙一

令和5年度教育課程について（届）

このことについて、東京学芸大学附属学校運営規程第3条に基づき、下記の通りお届けします。

記

1 教育目標

（1）学校の教育目標

健康な身体と すぐれた知性と 豊かな情操とをもち  
平和で 民主的な社会の進展に貢献できる 自主的で  
創造性に富む国民を育成する

（2）学校の教育目標を達成するための基本方針

新学習指導要領の実施に伴い、次の6つの方針により生徒を育成する。

- ①自ら考え実践する生徒を育成する。
- ②こころとからだを鍛える生徒を育成する。
- ③思いやりや奉仕の気持ちを持つ生徒を育成する。
- ④創意を働かせ工夫する生徒を育成する。
- ⑤考えや気持ちを的確に表現できる生徒を育成する。
- ⑥他から学び自らを変革できる生徒を育成する。

## 2 指導の重点

## (1) 各教科, 特別の教科 道徳, 総合的な学習の時間, 特別活動

## ア 各教科

- \*本校の研究の基本方針にある「教育の理論と実際に関する研究ならびに実証」の推進を意識し、「深い学び」、「真正な学び」、「拡張する学び」をキーワードとする教育研究活動に取り組む。
- \*国語科の重点項目は、様々な言語表現との出会いから「言葉の力」を実感し、その意義や価値を実感し、他者との協働を通して学びを拡張、多面的多角的に「深い学び」を実現しつつ、自己の言語表現を高めていくことのできる「豊かな言語生活者の育成」を図っていくことである。
- \*社会科の重点項目は、意欲的で対話的な深い学びを実現するために、意欲を喚起する、様々な形態での対話的な活動を行う等を通じて、社会的見方・考え方が深まるような「深い学び」が達成できるように指導していくことである。
- \*数学科の重点項目は、GIGAスクール構想によって各生徒に貸与されるPCを活用し、探究ができる力の育成である。関数領域と図形領域であれば、点が動いて線を作る様などから性質を発見したり、データの活用領域であれば、手作業だと時間がかかるようなデータの収集や操作を行ったりできるようにしていくことである。
- \*理科の重点項目は、主体的で対話的な深い学びの実現を通して、意欲をもって自然現象を追究し、ものごとを科学的にとらえ、論理的に実証的に社会的に理解することができる生徒の育成である。
- \*音楽科の重点項目は、各々の個性を認め合いつつ、それらの違いに気づくことを通して「オリジナリティあふれる表現活動」や「オリジナリティの違いに気づける鑑賞活動」の、生徒による主体的な実践を目指すことである。
- \*美術科の重点項目は、制作での手応えや仲間とのコミュニケーションなどその過程を通して、自分自身が積み重ねた経験や実感によって新たなみかたを紡ぎ出していく「生徒が築く美術」をねらいとしている。これは、3年間の美術の活動を積み重ねながら、自己の価値観を培える場としての授業をめざすものである。
- \*保健体育科の重点項目は、運動やスポーツの楽しさを追究し生涯にわたって運動やスポーツを実践できるようにすること（体育分野）と、自分の心や体を見つめ普段の生活を振り返りより良い健康な生活ができるようにすること（保健分野）である。
- \*技術・家庭科の重点項目は、ものづくりの活動を通して、日常生活における課題を発見し、この解決に向けた方策を社会科や理科等、他教科における学びと関連させながら設計し、創造的にこれを解決していく力を育むことである。
- \*英語科の重点項目は、習得した知識や4技能、思考力・判断力・表現力等を活用し、その過程を楽しみながら教科の本質に迫る学びである。目的・場面・状況に応じて、正確に情報の授受をし、自分の考えや気持ちを積極的に伝えようとする生徒の育成を図っている。

## イ 特別の教科 道徳

- (ア) 自分を大切にする、仲間を大切にする」生徒の育成を目指し、他者と相互に考え・議論することで自他の価値観を尊重できる力を育む。
- (イ) 3年間を見通した系統的な指導により、自他の生命の尊重、社会の一員として責任ある態度などを身につけさせる。
- (ウ) 持続可能な社会の視点を取り入れ、人間性を育み、人間・社会・自然環境との「関わり」「つながり」を尊重できる個人の育成に努める。
- (エ) いじめの未然防止はもちろん、日頃から人権を守ることでできる生徒の育成を図り、学校教育全般で行われている道徳教育における価値の理解を深められる授業を実践する。

## ウ 総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の重点項目は、各学年で実施される合計3回の修学旅行を軸として、各教科等の内容との関連を図りつつ、学びほぐしを通してキャリア教育、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等などの育成を図ることである。

## エ 特別活動

特別活動の重点項目は、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組む場を設定することで、自己を省みて自らの行動やあり方を考え実践していく判断力や他者と協働する力を養い、自らを変革することができる生徒を育成することである。

## (2) 特色ある教育活動

これまで蓄積してきた研究成果である「深い学び」を発展させた「真正な学び」「拡張する学び」を主軸とした学習指導に校内全体で取り組み、生徒同士の協働的な学びを軸としつつ、生徒の確かな学力を育成する。また、大学と同一の敷地内にあるという特性を活かして、豊かな自然環境を題材とした授業、大学の施設・設備を活用した授業、大学教授等の参画する授業、大学院生・学部学生との協働的な授業など、本校ならではの特殊性かつ多様性のある教育活動を充実・発展させ、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。

## (3) 生徒指導・進路指導

### ア 生徒指導

- ・人権教育：子供、高齢者、疾病や障害のある人、セクシャルマイノリティに属する人の立場、価値観の多様性など、様々な角度からの人権に関する指導を、教科の学習の中にも位置付けるなどして進める。
- ・いじめ防止対策とSNS教育：いじめはぜったいに行ってはならないということについて、未然防止並びに初期指導を徹底するとともに、近年のその温床となっているSNSの適切な使用について指導する。
- ・安全教育：生活安全、交通安全、災害安全という3つの視点から、安全の重要性やその確保の仕方について、警察署から講師を招くなどにより、意識の向上をめざした指導を行う。
- ・主権者教育：生徒一人一人が主権者であり、将来の我が国の担い手であることの意味と責任について、各教科や特別な教科「道徳」などを通して指導する。
- ・性暴力等の防止：すべての生徒が安心して学校生活を送り、様々な活動に意欲的に取り組むことができるよう、保護者及び関係者と連携を図りながら、学校全体で性暴力等の防止、早期発見、対処に取り組む。

### イ 進路指導

生徒一人一人の豊かな人生の実現を目指して、次のような計画に基づいて、3年間を見通した進路指導を行う。1年次は「種々の産業の在り方を学ぶ修学旅行」を軸として職業についての関心を高め、労働の価値や職業の多様性等について学習する。2年次には「大学教授による進路講演会」や「職業調べ」等を通して、興味を抱いている職業や生き方についての探究を深め、その成果を「私の主張発表会」において発表する。3年次には「私の進路計画」や「10年後の私」などの課題に取り組むことで、未来像を描き、その実現に向けての努力目標を具体化する。

## 第3表

学校名 東京学芸大学附属小金井中学校

## 3 学年別授業日数及び授業時数の配当

## (1)年間授業日数配当表

月 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
1	15	21	23	14	0	20	21	21	16	17	19	15	202
2	17	21	23	14	0	20	21	21	16	17	19	15	204
3	17	21	23	14	0	20	21	21	16	17	19	11	200
備 考	<授業日数が異なる理由> ・4月は、始業日と入学式が2日間ずれていることによる。 ・3月は、卒業式と修了日が4日間ずれていることによる。 <振替休業日を設定しない授業実施日> 5月27日(土) 6月11日(日) 11月3日(金・祝)												

## (2)各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動の年間授業時数配当表

学 年 区 分		1	2	3
各 教 科	国 語	140	140	105
	社 会	105	105	140
	数 学	140	105	140
	理 科	105	140	140
	音 楽	45	35	35
	美 術	45	35	35
	保 健 体 育	105	105	105
	技 術 ・ 家 庭	70	70	35
	外国語(英語)	140	140	140
	小 計	895	875	875
特別の教科 道徳		35	35	35
総合的な学習の時間		50	70	70
特別活動(学級活動)		35	35	35
総計		1015	1015	1015
備 考				
特別活動(学級活動)には、朝学活(10分)・終学活(10分)は含んでいない。				